

株主のみなさまへ

ENERGY HOT LINE

〈エナジーホットライン〉

第98期中間報告書

2021年4月1日～2021年9月30日



ごあいさつ

株主のみなさまには、平素格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

第98期の中間報告書をお届けいたします。

当第2四半期の連結決算につきましては、売上高は前年同期に比べ161億円増加の2,734億円、経常利益は前年同期に比べ52億円減少の227億円となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期に比べ66億円減少の174億円となりました。

当期の中間配当につきましては、普通株式は1株につき10円を配当させていただきます。

当社は、経営環境の変化に着実に対応していくため、「ほくでんグループ経営ビジョン2030」に則り、収益の拡大と費用の削減などの経営基盤の強化に取り組んでいます。

収益の拡大に向けて、低圧分野では、多様な料金プランのご提案のほか、「ほくでんガス」とのセット販売、他社との業務連携等によるサービスの充実化などに取り組んでいます。高圧・特別高圧分野では、電気のご使用状況等に応じた料金やトータルソリューションの提案を通じて、電力契約を獲得していきます。あわせて、積極的な卸販売の実施による販売量の増加にも取り組んでいます。また、「ほくでんガス」については、本年10月から、ガス暖房をお使いのお客さま向けに新たな料金プランのご提供を開始し、札幌市を含む道央圏で、都市ガスをご利用のほくまでのお客さまにお選びいただけるようになりました。

また、カイゼン活動を強力に推進するなど、あらゆる業務について不断の見直しを行い、抜本的な効率化・費用低減を図っています。あわせて、DX（デジタルトランスフォーメーション）の取り組みを加速させ、デジタル技術を活用した業務変革を推進し、生産性の向上を目指していきます。

泊発電所の新規制基準適合性に係る審査については、7月に敷地内断層の活動性評価に対し、「概ね妥当な検討がなされている」との評価をいただきました。泊発電所は、供給の安定性や収支・財務面、CO₂の排出削減などに寄与する重要な基幹電源であり、安全確保を大前提に早期再稼働の実現に向け、新規制基準適合性審査に総力を挙げて対応していきます。

脱炭素を目指す社会の変化に応えるため、「2050年カーボンニュートラルに向けたほくでんグループの取り組み」を4月に取りまとめました。再生可能エネルギーの導入拡大や泊発電所の最大限の活用に加え、電化の拡大や革新的技術の導入など、あらゆる手段を総動員して脱炭素化に取り組み、2050年の北海道におけるエネルギー全体のカーボンニュートラルの実現に最大限挑戦していきます。

ほくでんグループは、5月に創立70周年を迎えることができました。感謝の気持ちを込めて、今年度から各種記念事業を実施していきます。北海道のみなさまと新たな価値を創りあげる「共創」の考えに基づき、総合エネルギー企業として企業価値の向上を図るとともに、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献していきます。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも、当社の事業に対し、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2021年11月



取締役会長
真弓 明彦



取締役社長
藤井 裕

収支の概況(連結)【2021年度第2四半期連結累計期間】

(増減は前年同期比較)

営業収益(売上高)：2,734億円

積極的な卸販売の実施に伴う他社販売電力量の増加などにより、営業収益(売上高)は161億円増加の2,734億円となりました。

- ・2021年度第1四半期から、収益認識会計基準等の適用に伴い、電気事業会計規則が改正され、再生可能エネルギー固定価格買取制度に関する影響額について、収益・費用計上の対象外となります。
- ・営業収益(売上高)の前年同期比較の増減および前年度以前実績については、上記変更を遡及適用した後の数値にしています。

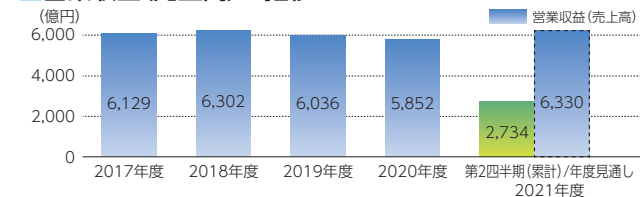
経常利益：227億円

他社販売電力量の増加や発電設備に係る修繕費の減少などはありませんでしたが、本年4月以降の燃料価格の上昇に伴う収支の悪化などにより、経常利益は52億円減少の227億円となりました。

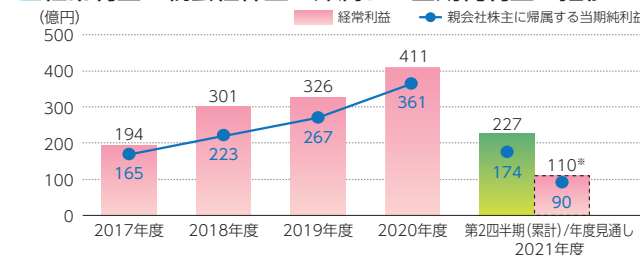
親会社株主に帰属する四半期純利益：174億円

親会社株主に帰属する四半期純利益は66億円減少の174億円となりました。

営業収益(売上高)の推移



経常利益と親会社株主に帰属する当期純利益の推移



※本年4月以降の燃料価格の上昇の影響が下期にはさらに拡大することに加え、前年度は寒波の影響があったことなどから、当期の経常利益は前年度に比べ減少するものと想定しています。

普通株式および優先株式の配当について

- ・中間配当については、普通株式は1株につき10円、B種優先株式は定款の定めに従い1株につき150万円としました。
- ・期末配当予想については、普通株式は1株につき10円、B種優先株式は定款の定めに従い1株につき150万円としております。

販売の拡大に向けた取り組み

当社は、2030年までに電力小売・卸売において販売電力量300億kWh以上/年を目指し、カーボンニュートラルを見据えた販売戦略を展開しています。

■家庭用分野～電化の拡大とサービスの多様化～

電力の契約獲得に向け、おトクで快適な暮らしを実現し、環境にも優しい「スマート電化^{*}」をおススメしています。9月に、総合住宅展示場内に「ほくでんスマート電化ショールーム」をオープンし、お客さまに、スマート電化機器の省エネ性・快適性を体感いただいています。

※暖冷房・給湯にヒートポンプ機器を、キッチンにIHクッキングヒーターを使用する電化スタイルのこと。



また、他業種とのアライアンスによる販売チャネルの拡大、スマートフォンアプリによる料金支払いサービスの拡充により、利便性向上も図っていきます。

参入から1年が経過した「ほくでんガス」は、10月から、ガス暖房をお使いのお客さま向けの新たな料金プランのご提供開始に合わせ、「月額基本料金3カ月無料キャンペーン」を展開しています。あわせて、ガス機器故障時の「かけつけ無料サービス」を開始し、さらなる契約獲得を目指します。

■法人分野～ソリューション営業の展開～

電気の使用実態に合わせた料金メニューやCO₂フリーメニューに加え、省エネルギー診断サービス等、ほくでんグループが培ってきた技術やノウハウを活用したソリューションを提供しています。

当社は2018年に大手電力・ガス会社で初めてZEB^{*}プランナーの登録を受け、北海道におけるZEB普及拡大のトップランナーとして、最多の実績を挙げています。

ZEBの提案を通じて、お客さまの脱炭素の取り組みをサポートするなど、さまざまなニーズにきめ細かく対応しシェアの回復・拡大を目指します。

※ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）

：快適な室内環境を保ちながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを旨とする建物。

泊発電所の早期再稼働に向けた取り組み

安全確保を大前提とした泊発電所の早期再稼働に向け、新規規制基準への適合に必要な安全対策工事とともに、原子力規制委員会による審査への対応を進めています。

最優先に取り組んできた発電所敷地内断層の活動性評価については、約12万～13万年前以後の活動性が無いことについて概ね妥当な検討がなされたものと評価され、審査における一つのステップを乗り越えたと考えています。その他の審査項目についても、引き続き総力を挙げ、適切に取り組んでいきます。

基準地震動の策定に向けては、震源を特定せず策定する地震動に関する申請を行ったほか、震源を特定して策定する地震動評価について、10月に行われた審査会合において「概ね妥当な検討がなされている」との評価をいただきました。

また、地震による津波の評価、火山影響評価、プラント施設に関する審査項目についても対応を進めています。

カーボンニュートラルに向けた取り組み

北海道における「エネルギー全体のカーボンニュートラル」の実現に最大限挑戦していくため、再生可能エネルギーの導入拡大や泊発電所の活用に加え、CCUS（CO₂を分離・回収、貯留、再利用する技術）や水素の利活用に関する調査事業などに取り組み、2050年までに「発電部門からのCO₂排出ゼロ」を目指します。

電化の拡大や、CO₂フリー水素の利活用など、あらゆる手段を総動員し、地域全体のCO₂排出量を削減していきます。

また、北海道が設立した「ゼロカーボン北海道推進協議会」の構成員として、オール北海道での幅広い連携や協働に努め、「ゼロカーボン北海道」の実現に貢献していきます。

■当社初「北海道電力グリーンボンド」の発行

再生可能エネルギーの開発などに用途を限定した社債「北海道電力グリーンボンド」を発行します。これにより、幅広いステークホルダーのみなさまに当社の積極的な環境への取り組みについてご理解いただくとともに、資金調達が多様化・安定化につなげていきます。

■「北海道水素事業プラットフォーム」の設立

北海道における水素社会・カーボンニュートラルの実現を目指し、7月、当社提案により、道内外企業が連携する「北海道水素事業プラットフォーム」を設立しました。各企業が有する知見・技術を結集し、北海道における水素サプライチェーン構築の早期実現を目指していきます。

創立70周年記念事業

ほくでんグループでは、みなさまへの感謝の気持ちを込めて、創立70周年記念事業に取り組んでいます。

■小学校でのSDGs教育支援

10月から、ほくでんグループの社員が道内各地の小学校を訪問し、SDGsに関する出前授業を行っています。児童が地球や社会の問題に対し、主体的に解決策を考え、具体的な行動を始めていくきっかけとなるよう取り組んでいます。



教材として製作した「北海道SDGsアクションブック」

■「ほくでん 北森カレッジ 共創の森」における記念植樹

北海道と「ほっかいどう企業の森林づくり」に係る協定を締結し、今後10年間にわたり道民の森・神居尻地区において、植樹・育樹を行うこととしました。

北海道の林業の明日を担う人材育成支援の観点から、道立林業専修学校「北の森づくり専門学院」とともに実施していきます。『共創』して新たな森を『創生』するという思いを込め、植樹場所を「ほくでん 北森カレッジ 共創の森」と命名しました。

■70周年記念ファミリーコンサート

本格的なクラシック音楽を気軽に楽しんでもらいたいとの思いで、1973年から全道各地で開催している「ほくでんファミリーコンサート」。今年度は70周年を記念し、ほくでんグループCMソング「365日の明日」をオーケストラ演奏でお届けしています（道内4会場）。

～ほくでんグループCMソング「365日の明日」フルバージョン公開中～

創立70周年の感謝の気持ちを込め、ほくでんグループCMソング「365日の明日」フルバージョンを制作しました。ほくでん公式YouTubeチャンネルでお届けしていますので、ぜひご視聴ください。

「365日の明日」Lyric Video (Featuring 島太星)



「365日の明日」Lyric Video (Featuring Rihwa)

